

平成28年 8月24日

上田市教育委員会
教育長 小林 一雄 様

上田市社会教育委員
代表 竹田 貴一

提 言 書
～地域と連携した学校を支援する取組の推進について～

上田市社会教育委員会議では、第二期上田市社会教育委員が、教育委員会の諮問に基づき、「上田市の生涯学習推進のための方策について」答申(平成22年8月31日付)を行い、「今後上田市の生涯学習推進のためには、学社連携が不可欠である」旨、特に重点的に述べさせていただきました。

また、第三期上田市社会教育委員において、「地域が学校を支える仕組みづくりの推進について」提言(平成24年8月23日付)を行い、「学社連携の推進とキャリア教育の推進」について述べさせていただき、第四期上田市社会教育委員においては、「学社連携の推進と土曜日の教育活動の推進について」提言(平成26年8月21日付)を行い、「学社連携の推進と土曜学習事業の推進」について述べさせていただきました。

長野県におきましては、学校と地域が「こんな子どもを育てたい」という願いや、それぞれの課題を共有し、一体となって子どもを育てる「信州型コミュニティスクール」を推進しており、平成29年度には、その実施割合を100%にするとの達成目標を盛り込んでおります。

上田市におきましては、平成20年度から始まった塩田中学校の学校支援地域本部事業による「しおだっ子応援団」を皮切りに、平成23年度に浦里小学校が市内で初めて文科省のコミュニティ・スクールに指定され、平成26年度には新たに川西小学校が指定されました。

県が推奨する「信州型コミュニティスクール」につきましても、塩田中学校と、浦里小学校、川西小学校を含めて、平成27年度には、市内18校でその取り組みが進んでおり、現在では、市内全ての学校で、信州型コミュニティスクールの導入に向けた取り組みを行っているとお聞きしております。

こうした中、第五期の現上田市社会教育委員においても、ボランティア養成講座やコーディネーター養成講座などの研修への参加、また、県内外の先進地視察や学社融合フォーラム等の参加などを通じ、学習と検証を重ねてきました。そして、上田市の子どもたちが地域の人たちと関わりあう中で、多様な学習や体験を通して豊かな生きる力を身に付け、郷土に対する誇りを持つとともに、地域創生にもつながっていくよう、上田市で取り組んでいる「地域が学校を支える取り組み」を更に進めていくために、次のとおり提言いたします。

1 学校支援ボランティアの育成について

地域には、さまざまな趣味や文化活動、仕事などを通じた豊富な経験や知識・能力を持つ方が大勢います。

日ごろから地域の住民と接し、地域の情報をよく知っている公民館などが中心となり、学校支援に意欲や関心を持っている地域の人材を発掘するとともに、地域と学校の橋渡しとなれるよう、学校との連携を密にすることが大切です。

また、現在学校になんらかの形で関わっている方をはじめとする地域住民の方を対象とした、学校支援のための研修や講座を開催し、ボランティアの育成・拡充・定着を図っていく必要があります。

(1) 学校が地域に対しどのような支援を望んでいるのかを把握するため、学校が公民館に気軽に相談できる体制を構築することが重要です。

そのために、地域と学校、公民館などの関係者が定期的に集まり、お互いの情報を共有できる場を設け、信頼関係の構築を図ることを希望します。

(2) 地域住民の中には、「地域の子どものために、何か役に立てることはないか」という意識を常に持っている方が大勢いますが、どうしたら良いか分からない方も多いのではないのでしょうか。

公民館等では、各学校が求めている支援の把握に努めるとともに、日頃公民館活動をされている地域の方々の意見を伺い、その中から学校支援に関わる人材を発掘し、地域と学校をつなぐ役割を担うことを希望します。

(3) 学校支援が長期になってくると、ボランティアの高齢化や登録者数が減少傾向となることが問題となることから、ボランティアの拡充に向けた働きかけや、学校支援ボランティアの研修を実施し、ボランティア育成の推進を図ることを望みます。

2 コーディネーターの育成について

信州型コミュニティスクールを進めるうえで重要なのが、学校と地域の両方の情報を持ち、互いの要求を調整する機能をもつコーディネーターの存在です。

学校支援の取組みを持続的かつ自立的な活動として進めていくためには、学校の実情に合わせ、学校が求めている支援を的確に把握し、できる支援をできるところから行っていくことが大切です。より多くの研修機会を設け、学校と地域をつなぐコーディネーターを、今以上に育成する必要があります。

(1) 地域と学校の両方の情報を持っている地域の方に、コーディネーターを担っていただくことが重要と考えますが、当面は公民館職員等と協働でコーディネーターを担っていただくことを望みます。

(2) 現在、地域のコーディネーターは、PTA 役員のOB や学校評議員が務めることが多い状況ですが、さらに多くの地域住民の方にコーディネーターを担っていただく必要があります。そのため、行政は、学校ボランティアの方などに、コーディネーターやボランティアのスキルアップ研修講座への参加を呼びかけたり、すでに信州型コミュニティスクールが実践されている学校の視察などを企画し、コーディネーターの育成を図ることを望みます。

3 統括コーディネーターの配置について

信州型コミュニティスクールを充実するためには、地域のコーディネーターの資質の向上を図るほか、コーディネーターをバックアップするための体制が必要です。

そこで、コーディネーター間の連絡調整やネットワーク化の促進、学校支援が未実施の地域の取組み開始を促進するために、新たに、全体を見渡せる統括コーディネーターの育成を進める必要があります。

(1) 統括コーディネーターは、地域の中でコーディネーターにふさわしい方を見出したり、これからコーディネーターになる方や、コーディネーターになったばかりの方にアドバイスしたり等できる方が適任です。

御自身の今までの活動を通じて、地域の事や地域の方をよく知っている方に担っていただくことを望みます。

(2) 地域による学校支援が拡大してきている中で、各学校での支援をより良い活動にしていくため、ボランティア同士、またコーディネーター同士が交流し、情報交換等を行う機会を設け、このような場面で、統括コーディネーターには、交流の推進を図っていただくことを希望します。

(3) 統括コーディネーターは、公民館区ごとへの配置が進むよう、発掘・育成を進めることを望みます。